平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究　1	公益目的事業　11
主査名	西田　泰　・　公益財団法人交通事故総合分析センター 特別研究員兼研究第一課長	
研究テーマ	交通事故対策の効果評価と今後の交通事故情勢に関する研究	

研究の目的：

本研究では、交通事故対策の効果評価や交通事故情勢の推移に関する文献調査を行い、交通事故対策の効果評価の考え方を整理し、不適切な評価（過大あるいは過小）となる要因を解明することで適切な対策効果の評価方法について論じるとともに、死亡事故の増加・減少要因を含めた影響要因について検討し、今後の交通事故情勢を予測する。

研究の経過（4 月～9 月）：

○　第 1 回委員会（9 月 20 日開催）で研究計画の確認及び今後の方針検討

分析例の紹介：①月別～積雪地の特徴、利用交通機関の選択、②当事者相関別～自転車事故、③人口高齢化の影響～、④事故の影響要因（震災、天候、転居）←　平成 27 年度報告会資料の紹介

対象施策候補：ﾁｬｲﾙﾄﾞｼｰﾄ義務化、自動車歩行者保護装置、生活道路対策、免許返納制度等

影響要因及び事故対策の検討：マスコミの効果、自転車事故（右側通行、対策効果）、国際化（外国人事故）等

○　分析作業

交通事故統計分析：自転車事故を対象に、都道府県別事故情勢の地域差や時間差について分析

交通違反特性分析：都道府県別交通違反特性の分析により、人的特性の地域差/不偏性について検討

対策効果評価の試行：事故の起こり易さの指標を使い、自転車専用通行帯設置の効果評価（データ不足で不調）

下期へ向けて（課題等）：

設定した対象施策に対する効果評価の分析

第 10 次交通安全基本計画の目標値の意味するところを整理（人口高齢化を補正した値の試算等）

予測モデルの検討：モデルの構造、特に、今まで検討されることがなかった母数の詳細（発生地と居住地や車籍地の関係等）と事故の関連性等について検討

研究メンバー（敬称略）：

西田泰（主査・交通事故総合分析センター）景山久（交通評論家）鹿島茂（中央大学）樋口忠夫（日本交通科学学会）村田隆裕（交通評論家）小菅英恵（筑波大学）